

中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会  
コミュニケーション推進チーム（第6回） 議事録

1. 日 時： 令和5年3月8日（水）10時00分～11時30分

2. 場 所： WEB会議による開催

3. 出席者（敬称略）：

委 員：高村座長、大沼委員、竹田委員、万福委員、保高委員

事務局：環境省 馬場参事官、西川参事官補佐、水橋参事官補佐

4. 配付資料

資料1 今年度の除去土壌等の再生利用・県外最終処分に対する理解醸成等の取組状況  
について

資料2 今年度の理解醸成活動の効果検証 について

資料3 来年度の理解醸成等の実施計画（案） について

参考資料1-1 コミュニケーション推進チームの運営について

参考資料1-2 コミュニケーション推進チーム 委員名簿

参考資料2 令和4年度 WEBアンケート結果

5. 議題

（1）今年度の 除去土壌等の再生利用・県外最終処分に対する理解醸成等 の取組状況  
について

（2）今年度の理解醸成等の取組の効果検証について

（3）来年度の理解醸成等の実施計画（案）について

（4）その他

（西川参事官補佐）それでは定刻となりましたので、中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会コミュニケーション推進チーム第6回を開催いたします。委員におかれましては、ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

まず、今回の会議開催方法についてご説明いたします。本日のCTは、WEB会議により開催させていただきます。一般傍聴については、インターネットによる生配信により行います。

それでは開催に当たり、環境省環境再生・資源循環局、担当参事官の馬場よりごあいさつ

させていただきます。お願いします。

(馬場参事官) 委員の先生方、おはようございます。今日もよろしくお願いいたします。今年度2回目のコミュニケーション推進チームでございます。今日は今年度の理解醸成の結果と、それから来年度の理解醸成計画についてご議論をお願いしたいと思います。理解醸成というのはどうしても定性的な議論になる傾向にありますけれども、きちんと少しでも定量的にその成果を示せるように進めていきたいと思っておりますので、今日もさまざまな観点からご議論よろしくお願いいたします。

(西川参事官補佐) 馬場参事官、ありがとうございます。それでは議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。インターネットを通じて傍聴いただいている方には、案内の際に資料を掲載している URL をご案内させていただいておりますので、ご確認をお願いします。

まず、議事次第でございまして、その他配布資料として、資料1、今年度の除去土壌等の再生利用・県外最終処分に対する理解醸成等の取組状況について。資料2、今年度の理解醸成活動の効果検証について。資料3、今年度の理解醸成等の実施計画(案)について。参考資料1-1、コミュニケーション推進チームの運営について。参考資料1-2、コミュニケーション推進チーム委員名簿。そして参考資料2として、令和4年度WEBアンケート結果です。また本日の議事録につきましては、事務局で作成いたしまして、委員のご確認・ご了解いただいた上で、環境省ホームページに掲載させていただく予定でございます。

(西川参事官補佐) それでは、議事に入らせていただければと思います。ここからは高村座長にご進行いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(高村座長) よろしく申し上げます。座長の高村でございます。委員の皆さまにおかれましては、ご多用の中、特に年度末の非常にご多用の中、ご出席いただきましてありがとうございます。今回は第6回ということですが、今年度も理解醸成に向けた取組が種々行われております。本日は、今年度行われたその理解醸成等の取組、そしてその効果の検証ということについて委員の先生方にご議論いただきまして、次年度以降の理解醸成活動をより効率的に効果的にいくような考察を与えていく、いい機会にしていければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に移らせていただきたいと思っております。「今年度の除去土壌等の再生利用・県外最終処分に対する理解醸成等の取組状況について」として、資料1について、事務局からの説明をよろしくお願いいたします。

(西川参事官補佐) ありがとうございます。それでは資料1について、ご説明を事務局からさせていただきます。本日資料1でご説明させていただきますのは、今年度の理解醸成等の取組状況について、また毎年度行っております、WEBアンケートの結果についてご報告いたします。

理解醸成等の取組状況については、前回の11月のCTでもご報告をさせていただいたと

ころでございます。理解醸成活動として、大きく分けて6つ取組を実施しているところがございます。現場公開、全国的な理解醸成活動、環境再生ツーリズムの推進、広報誌等の掲載、情報発信、そして国際的な情報発信です。

前回のCTでご報告を一部させていただいたところもありますので、今回は更新のあった点を中心にご説明をさせていただければと存じます。よろしくお願いいたします。

まず現場公開です。飯舘村長泥地区の除去土壌の再生利用実証事業について、現場公開、視察対応を行っているところがございます。今年度につきましては、1月末時点の結果ですが、これまで延べ630名の方に視察をいただいております。県内外の高校・大学とか、国や地方自治体の行政機関など、様々な方に来ていただいているところです。

さらに一般の方向けの見学会ということも実施しておりまして、上の箱の中段にありますけども、昨年度は135名、今年度は167名の方々にご参加をいただいたところです。

下のほうに見学会の参加者アンケートの結果、載せさせていただいておりますけども、実際に見学会に参加いただき、よく理解できたというご意見であったり、再生利用の賛否についての賛成のご意向を持っていらっしゃる方も、見学会を通じて多数いらっしゃるようで、現場公開の効果を感じているところです。ただ、まだ改善できる点も多々ございますから、アンケート結果を踏まえて、引き続きより良い運営に取り組んでいきたいと思っております。

また全国的な理解醸成活動ということで、再生利用・県外最終処分に関して、全国的に理解を広めていきたいということで、対話フォーラムを昨年度から開始しています。これまで7回実施してまいりまして、次回は今月18日になりますけども、仙台で開催ということで、今年度は予定も含めまして計8回という予定になっています。対話フォーラムの取組結果、こういった評価については、次の議題にてご説明をさせていただきたいと思っております。

続きまして、除去土壌を用いた鉢植え・プランターを各所に設置してきたところです。

こうした鉢植えにつきましては、環境大臣室に設置して以降、総理大臣官邸、関係省庁、新宿御苑などの環境省関連施設に設置いたしまして、現時点で17施設22個の鉢植えを設置しているところがございます。いずれも放射線量を測定しておりまして、鉢植えを設置した前後の空間線量率に変化はないということも確認しておりますので、こうしたことを通じ、除去土壌の安全性とか、そういったことも含めて様々な方に知っていただくということも今後継続していきたいと思っております。

続きまして、大学生や高校生等を対象とした講義ということで、CTの先生方にもご協力をいただきながら、若い世代に向けた理解醸成ということで、全国の大学生や高校生などを対象とした講義を進めているところです。昨年度は計33校で実施してまいりましたけども、今年度はさらに拡充をいたしまして、集中講義方式とかゼミ方式、またWEB講義などを取り入れまして、1月末時点という数字にはなりますけども、約45の大学・高校など、また約160コマに相当する講義で約2,000名の学生に受講していただいているということです。

また講義と併せて、現地見学ワークショップということも実施させていただいてまして、学生の皆さまに現地も見ていただくことで、より再生利用の安全性等の理解というものが深まっているというふうに考えてございます。

続きまして、環境再生ツーリズムの推進ということでございまして、こちら前回もご紹介させていただきましたが、若い世代など、環境再生事業の現場、福島復興の現状、こういったものを現地に見ていただくツアーなども実施してまいりました。さらにより多くの方に現場を見ていただくためには、やはり環境省だけではなくて、他の機関との連携も大事ということで、前回も少し紹介させていただきましたけども、引き続き福島県など、関係者ともご相談させていただきながら、ホープツーリズムの連携も検討していきたいと思っております。

さらに広報誌等の掲載ということで、この情報発信の一環として、環境省の広報誌など掲載してまいりました。上の箱の2ポツ目に書いてございますけども、飯舘村の長泥地区環境再生事業運営協議会、こういったものを地元の方と協力させていただきながらやっております。こちらの協議会の内容を分かりやすく伝える『運営協議会便り』を地元の方と協力させていただきながら取り組んでいるところです。

ここからは情報発信の取組ということで、動画の作成や表彰、こういった色々な媒体を活用させていただいたり、あとは福島県内外のイベントでの出展にも取り組んでいるところです。こちらのスライドは、前回11月のCTでご報告させていただいた内容が中心となりますので、大変恐縮ではございますけども、今回ご説明としては割愛させていただきますが、何かございましたら、この後ご質問等いただければと存じます。

さらにこちら、3.11の時期には、環境再生事業の1年の振り返りや「ふくしまの未来を考える」シンポジウムも開催してきてございます。若者をはじめとする県内外の方と福島の未来に向けたメッセージをシンポジウムを通じて発信しております。今年度につきましては、今月の12日に開催予定です。

最後になりますけども、国際的な情報発信にも取り組んでいるところです。前回もご紹介させていただきましたが、COP26や27でブース展示やセミナーも今まで実施してきておりますけども、やはりこういった国際的な情報発信は重要ですので、来年度もCOP28への情報発信とか、海外メディア向けの現地視察会、さらに今年のG7におけるブース展示などによる情報発信も検討していきたいと考えています。

また除去土壌等の再生利用・最終処分等に関する専門家会合の開催についてIAEAとも合意をさせていただきました。これから計3回程度、会合を開催予定としてございますけども、第1回目の会合を今年の春ごろに開催する予定です。

前回CTからアップデートされた情報、内容を中心にまずはご報告をさせていただきました。以上が今年度の理解醸成活動の取組状況となっております。

続きまして、例年実施しておりますWEBアンケートの結果についてご報告をします。例年実施しておりますけども、除去土壌の再生利用等に関する全国的なWEBアンケート調

査を今年度も実施してまいりまして、結果を簡単にご紹介できればと思います。結果の詳細は細部にわたりますので、結果詳細につきましては、参考資料2のほうで全体をまとめておりますので、そちらもぜひご参照いただければと存じます。

WEB アンケートでは、新規回答者に加えて、複数年連続回答している継続回答者も踏まえておりますけども、今回資料1では、新規回答者のみを抽出した結果をご説明させていただければと思います。

これからご紹介するアンケートの回答者でございますけども、令和4年度の新規回答者は1,680名、令和3年度のほうは1,659名の新規回答者ということで、そちらを比較した形になってございます。質問事項についても、代表的なものだけピックアップさせていただいておりますので、このスライド以降で説明をさせていただければと思います。

まず1問目でございますけども、県外最終処分されると法律で定められていることについての認知度になっております。下が昨年度の結果、上が今年度の結果となっております。資料にございますとおり、傾向としてはほぼ同様の状況でございます。今年度について、福島県内では、「よく知っていた」または「その内容も少し知っていた」という方、これらを合わせると約5割の方、福島県以外でも約2割の方が認知されているというような結果になってございます。我々としても理解醸成の取組、引き続き継続してございますけども、なかなか認知度というのは上がっていない状況という現状でございますので、今後も引き続き取組を強化していく必要があるというふうに考えています。

続いて、県外最終処分に関する情報を得た媒体はどこかという質問になります。右が昨年度、左が今年度の結果となりますけども、こちらも両年度ともに、やはりテレビが非常に多い傾向になっております。

次に、除去土壌の再生利用に関する認知度の結果です。こちらも県外最終処分の認知度と同様に、やはり傾向としてはほぼ同様の状況でございます。福島県内で「よく知っていた」「内容も少し知っていた」という方を合わせると約35%程度、福島県以外で約12%のところですので。引き続き再生利用の理解醸成を進めていく必要があると、我々としても受け止めてございます。

再生利用についての情報を得た媒体になっております。これは県外最終処分の認知度の際と同じような傾向でございます。やはり引き続きテレビが多いという結果が出ています。

次に、除去土壌の再生利用の必要性に関する受け止めに関する質問です。昨年度と傾向としてはほぼ同様の状況でございますけども、福島県内・県外いずれも、必要性について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とお答えいただいた方は、福島県内外ではいずれも約35%という結果になっていました。

最後になりますけども、除去土壌の再生利用の安全性に関する受け止めになっております。福島県内では「そう思う」「どちらかというところ」という方を合わせて約26%で、これは昨年度に比べますと、やや増加の傾向にあるというふうに考えてございます。一方で福島県以外では約16%ということで、昨年度と傾向はほぼ同様という結果になっております。

以上、主な質問についてのアンケート結果を紹介させていただきました。やはり県外最終処分の認知度も含めまして、昨年度から基本的に下がってはいないものの、今年度の結果も踏まえつつ、環境省としても引き続き理解醸成活動を強化して、来年度もしっかり情報発信を進めていきたいと考えております。資料1につきましては、以上となります。よろしくお願ひします。

(高村座長) ありがとうございます。今年度も種々取組を進めていったわけですが、アンケート調査では、若干認知度上がっていく、大きく上がっているとは、ないなというか、ちょっと難しかったかなというのが今日の結果だったと思いますけども、ただ今の説明につきまして、委員の先生方から何かご意見・ご質問等ございますでしょうか。大沼委員、お願ひします。

(大沼委員) ご説明ありがとうございます。アンケートの説明で、認知度が変わってないというご説明だったと思うのですが、これを見ると、すごいなと思っていて、例えばスライド20を見せていただくと、これは福島県以外で、県内もそうなのですが、3%上がっているのですよね。この状況で3%上がっているのは、すごく小さく見えるけれども、とても大きなことです。というのは、どのように結果を読むかという、こういう問題は、何もしなければどんどん下がっていくというのが通常で、大体何かやって横ばい、現状維持というのが普通なのです。特にコロナ禍で、コロナ以前のことは全てのことが、この問題に限らず忘れ去られたりしている中で、3%も上がったというのは、もう少し前向きに受け止めていいかなと思います。

同じことはスライド24にも言えて、スライド24の必要性に関しても、これ福島県外で4ポイント上がっているのですよね。これすごい画期的なことで、統計学的に言うと、恐らく画期的なことが起こっていると解釈していいかなと思います。

強いて言うなら、やっぱり一番最後の安全性だけは、県外では上がっておらず、県内ではすごく上がっているという、スライド25です。ここだけちょっと課題であり、県外で何で上がっていないのかなという、そこだけもう少し分析できたらよいと思いますけども、全体的にそんなに悲観するような結果ではないと読んでいいかなと思っています。以上です。

(高村座長)：ありがとうございます。大沼委員のほうから、決して悲観する数字ではないと、コロナ禍においては、この数字、若干増加しているということは、むしろ前向きに評価すべきであるということをおっしゃっていましたが、環境省のほうから何かご意見ありますか、コメント等。

(西川参事官補佐) 大沼委員、ありがとうございます。大変力強いコメントというか、統計学的にも見てということで、やはり数%上がるだけでも、こういった状況、コロナも含めて、非常にすごいことということで、我々としても心強いというところではあるのですが、最後、例えば除去土壌の再生利用の安全性についてはおっしゃるとおり、県外でもなかなか上がってない部分もありますので、我々も来年度理解醸成を行っていく中で、こういったところについて、よりどうやったら安全性について伝えていけるかの工夫は引き続き取り組んで

いきたいと思っています。

(高村座長) ありがとうございます。他にご意見等ございますでしょうか。竹田委員、お願いします。

(竹田委員) 竹田でございます。ご説明ありがとうございました。今の資料の6ページでございます。現場公開してもらうのは非常に効果的だというご説明をいただいて、昨年度が135、今年度も167ということで、ほぼほぼ同じぐらいの数字なのです。これって見学の間所とかのキャパシティーの関係で、もうこれ以上増やせないという状況なのか、もっと拡大していくことが可能なのか、その点の物理的な状況も含めて、いかがでしょうか。

(西川参事官補佐) ありがとうございます。キャパシティーの関係では必ずしもないかなと思っていますので、見学会の周知の方法であったりとか、そういったものを含めて、より多くの方に関心を持っていただいて、この数字がより来年度は上がっていくようにというのは、我々としても取り組める場所だと思っていますので、ぜひ来年度も現地を見ていただけるような形で、より多くの方に多く情報発信していきたいと思います。

(竹田委員) 企業研修とか、そういうのとタイアップするともっと大きくなったりするのかなと思いましたので、ご参考まで。ありがとうございます。

(高村座長) ありがとうございます。万福委員、お願いします。

(万福委員) 西川さん、ご説明ありがとうございました。現地見学会ということですが、長泥の実証事業を見せていただくことについては、これは福島県内では、委員の先生方もご覧になったと思いますが、テレビCMとかで「環境省が現地見学会やっています」と拝見したことがあります。ちょっと別件になりますけど、「中間貯蔵施設のほうでも見学会やっています」というようなこともあったように思います、そういうテレビで見かける機会というのはあるのかなというふうに個人的には思いました。

長泥の現地見学会ですけど、現地がある程度進んでいく、実証事業ではあるものの一部工事も含まれていますので、土壌を再生する施設は解体が始まっており、次の機会にはほぼほぼ造成工事になりますので、これからちょっと見せ方の工夫というところがより必要になってくるので、今日ご回答いただく必要はないですが、工事の進捗と併せて、その現地の見せ方といったところは工夫をされたほうがよろしいのではないのかと思っています。あと現地で協力していただいている方々も高齢化されてきているので、できれば現地の方も少し次世代の方々を含めて現場に来ていただけるような工夫といったところも必要かと思います。以上です。

(高村座長) ありがとうございます。見せ方の工夫、あるいは現地の方の参加の仕方についての工夫ということでしょうかね。保高委員はどうですか。

(保高委員) ご説明ありがとうございました。私のほうから2点ありまして、1点目が、今回、大沼委員がおっしゃったように、認知度が下がっていない、むしろ平行だというのはすごいことだってお話がありましたけれども、その点に関して環境省がやっている広報活動というのがあると思うのですが、一般的な新聞であったりメディアでどれぐらい報道され

ているのかということも多分重要なポイントだと思っています。そういった意味では、今回環境省がやってきた事業以外にどれぐらい報道があったかみたいなことの統計的な情報が年度ごとどうだったのを整理いただくと、それもこういったことに寄与しているのではないかという一つポイントになってくるかなと思っています。特に3月11日がくれば報道が増えるとは思いますが、そういった点が1つです。

もう一つが、今回さまざまな取組がされている中で、やはりその中でのご説明の内容というのが統一的になっているかどうかというのは、一つのポイントだと思っております。まず行っていただいて、見て、知っていただくと。プラス、自分ごととして考えるみたいなフェーズ、もしくは自分のところで最終処分があったり、もしくは再生利用があったりしたらどう考えるか、みたいなことがいろいろあると思うのです。そういったところで、来年度以降に関しては、それぞれのいろんな取組の中で伝えるべき内容が、このところではこれぐらいまで、みたいなしっかりとした目標設定があったほうがいいのではないかなと思っています。以上でございます。

(高村座長) 環境省から、いかがでしょうか。

(西川参事官補佐) 万福委員、保高委員、ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり長泥については、やはり工事の進捗というものが一定程度進んでいく中で、来年度何を見せしていくかということは、我々としても課題だと認識しているところです。

そういった中で、当然再生利用、どう実証事業を行ってきたかということも、全体のストーリーもそうですけども、例えばその現地の方の思いだったりとか、そういったものも含めて見学会であったりとか、一般の方にお伝えできるような、そういった取組、地域の思いや歴史とか、こういったものも長泥であったり中間貯蔵施設で何かお伝えできないことがないか、色々中身を工夫しながら来年度も実施していきたいと思っています。

そういった中でも、高齢の方も増えてきているという中で、いかに若者を巻き込んでくかということも含めて、引き続き委員の皆さまにご相談させていただきながら、来年度も実施していきたいと思えます。

保高委員から2点ご指摘いただきまして、メディアの報道がどういったところになっているのかは、日々我々としてもチェックはしているのですが、それを何か体系的に整理するようなことは、どこまでできているか、例えば次の資料2でも、各イベントでどういったメディアにどれぐらい認知したかとか、そういった個別の数字は取っているのですが、それをさらに体系的にというのは、来年度も引き続き検討させていただきたいと思えました。

さらに2点目でございます、各取組の中で、それぞれの取組の目的とか、それをして何を伝えていくべきか、そういったところを考えるべきというような、ご指摘だと思っております。まずは入口として知っていただく、さらに理解していただく、さらにそこから自分ごととして考えていただく、それぞれについての伝え方は、おっしゃるとおり当然変わってきますので、資料3で、どういったところの、どのフェーズの人たちに、何をやっていくか

ということは、最後ご説明させていただければと思いますけども、その実施に当たっては、ご指摘の点もぜひ検討しながら進めていきたいと思います。

(高村座長) ありがとうございます。それでは時間も限られておりますので、いったんここで区切らせていただいて、後ほど全体を通してご意見頂く場を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは続きまして、議題2に参りたいと思います。議題2、「今年度の理解醸成等の取組の効果検証について」として、資料2について、事務局のほうから説明よろしく願いいたします。

(水橋参事官補佐) 福島再生・未来志向プロジェクト推進室の水橋と申します。私のほうから資料2についてご説明をさせていただきたいと思います。

まず、今年度だけに限らず、近年の広報活動、理解醸成活動につきましては、中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略に基づきまして、全国的な理解醸成を図るということで進めさせていただいているところでございます。資料1でも全国のアンケート調査がございましたけれども、やはりまだ認知が低いというところもありますので、理解促進を図るだけではなくて、認知を広げていく取組を並行して進めさせていただいているところでございます。

全体的な施策の目標としましては、県外最終処分は全国的な課題であるということに関して皆さまの認識の共有を図っていったり、ご理解を促進していくということでございまして、これに向けて対話フォーラム、現地視察会、こういった各施策を進めているところでございます。各施策で可能な限りアンケート調査を行ったり、アンケート調査できないものにつきましても、実施結果の実績の数値、そういったものを検証して、効果検証をやらせていただいております。

今年度の個別施策の評価の考え方ということで、まず右下のほうに全国WEBアンケートというものがございます。この全国WEBアンケートの回答の動向とかを見ながら、今年度どういった方々にどういったアプローチをしていくかということ、左上のほうですけど、主要なターゲットを決めさせていただいて、それに基づいて個別の取組を、対話フォーラム、現地見学会、こういった取組を進めていきます。それぞれの取組については、実施実績やアンケートを踏まえて効果を検証して、また、年度末ですけど、全国のWEBアンケートの動向を見ながら、次にどういったことを進めていくかということ繰り返し考えていくと、そういったことを進めてきております。

実際今年度の施策を進めるに当たって、令和3年度のWEBアンケート結果がどうだったかというのが次のページにございます。

こちらのグラフ、左側、特に福島県外のほうをご覧いただきたいのですが、やはり若年層につきましては、認識されていない方が結構割合としては多いですので、若年層の方に対しては認知を広げていく取組を特に重点的にやっていかなければならないというところがあるかと思っております。中高年層につきましては、若年層の方に比べますと、認知してくださ

っている方が一定割合いらっしゃいますので、理解も深めていただいたり参加していただく取組を進めていくことが必要だと考えまして、次のページでございますけれども、今年度の施策の全体像を示させていただきます。

昨年度は、全国的な理解醸成活動の最初だったということもありまして、右側から2番目の参加というところに主要施策がございますけれども、対話フォーラムですとかシンポジウム、ワークショップ、現地見学会、こういったイベントが中心になっていまして、認知を広げていくという取組を昨年度はあまりできていなかったというところもございました。

今年度につきましては、この主要施策にある対話フォーラムや現地見学会などの主要施策はやりつつも、こういったものをきっかけに認知を広げていくということで、左側がございますとおり、こういったイベントのPRですとか、WEB記事広告、それからインフルエンサーの方などにもイベントにご参加いただいて発信をしていただいたりですとか、地方のテレビ番組とのタイアップなどを行って、各イベントにご参加いただかなくても、こういうイベントがあるということを広く多くの方に知っていただく取組を行いました。

それから一番右でございますとおり、イベントにご参加いただいた方にもSNS等で発信をしていただく取組を進めさせていただいております。

これが主な施策の役割整理マップということで、対話フォーラム、イベント、次世代ツアーにつきましては、来てくださった方には、右側のほうにございますとおり、内容を認知していただいたり、理解促進を図っていくという取組になってございますけれども、左側でございますとおり、こういったイベントを広くPR等することによって、イベントにご参加いただかなかった方にも、少しでも「福島でこういったことがあるのだな」ということをご認識いただく、そういった形で進めさせていただいております。

また、若年層の方に対しましては、学生のフィールドワークやワークショップなども行っておりまして、より理解を深めていただいて自ら考えていただくような取組をさせていただきつつ、メディアの方などにも現地に来ていただいて、メディアの方から各媒体を通じて発信をしていただくことによって、多くの国民の皆さまに少しでも認知していただくような取組を進めてきたところでございます。

繰り返しになりますけれども、今年度、主要施策、左側でございますとおり、対話フォーラム、次世代ツアー、現地見学会などを行いまして、それぞれアウトプット指標ということで、どれぐらいの方が参加してくださったか、どれぐらいの投稿数があったか、どれぐらいのメディアに取り上げていただいたかなどの実績と併せて、対話フォーラムや現地見学会につきましては、アンケート調査も可能でございますので、極力アンケート調査を取って、個別の施策の効果についての評価を行っております。

特にアンケート調査におきましては、右側でございますとおり、CTのWEBアンケートと同じような質問を設定させていただくことによって、それぞれの取組がどれぐらい認知の向上や理解の促進につながったかということ、できるだけCTのWEBアンケートと同じような形で評価できるようなアンケートを実施させていただいたというところでござい

ます。

次、10 ページ目が、それぞれ主要施策のアウトプット・アウトカム指標でございますけど、少し細かいですので、次のページで概要についてご説明をさせていただきたいと思えます。

まず対話フォーラムにつきましては、右側の実際の効果・評価というところをご覧いただきたいのですが、400 名以上の方にご参加いただきまして、ご参加くださった方の理解度 80%という結果でございます。ご参加いただいた方は、意識が変わってくださった方もいらっしゃると思えますし、あとは YouTube でリアルタイムでご覧いただいたりですとか、デジタル広告で拡散させていただいたりということで、直接ご参加くださらなかった方にも少しでも見ていただけるような環境で取組を進めて、認知も広げることに寄与したのではないかと考えてございます。

未来志向シンポジウムにつきましては、今週末開催する予定でございますので、現時点では効果検証できてないのですが、その下の次世代ツアーでございますが、75 名の方にご参加いただきました。関心度について、10 ページと併せて記載ミスがございまして、関心度 98.2%、理解度 100%という結果で、非常にご関心やご理解を深めていただくのに良い取組だったと感じております。

いろいろな PR をさせていただきまして、170 万件以上の PR、実際どれだけの方がご覧いただけたかまでは、ちゃんと検証、確認が難しいところではあるのですが、ポテンシャルとしては 170 万人ぐらいの方に情報をお届けさせていただけるような PR を行ったということでございます。実際イベントの参加者は少ないのですが、多くの方に認知いただくきっかけにもなったかと思えますし、ハッシュタグでの拡散も 358 件ということで、若い方ならではのアプローチができたのではないかと認識しております。

それから今年度、県内外さまざまなイベントで、ブース出展をさせていただいたりということで、2,600 名の方にご来場いただきまして、ご来場いただいた方には、福島に対するご関心ですとか、除去土壌の課題に関するご理解を少しでも促進ができたのではないかと考えております。

ただこのイベントにつきましては、なかなかアンケート調査が難しいところがございますので、次のページでも述べさせていただきましても、この点が少し課題かなというところがございます。

それから次世代ツアー以外の現地見学会ということで、事前・事後の講義と現地見学会、ワークショップをセットでやらせていただいたものもでございます。こちらにつきましては、1,000 人以上の方に講義をさせていただきまして、非常に多くの方にこの課題について知っていただく、考えていただく機会になったと考えております。実際現場に来てくださったのは、この現地視察会の規模の都合もありまして、50 名程度ではあったのですが、現地見学会に来てくださった方、理解度 100%ということで、ご理解いただくのに非常に有効な取組であったと思っております。学生が自ら考えて発表する機会も多く、このような点が深い理

解につながったのではないかと考えております。

その他の現地見学会につきましては、全部で 470 名以上の方にご参加いただきまして、こちらも 10 ページと併せまして転記ミスでございまして、関心度 94%、理解度 97%ということで、非常に高いご関心・ご理解を促せたと考えております。先ほども委員の先生からありましたけど、現地に来ていただくことは、非常に有効な手段であると思っておりますので、引き続き来年度もしっかりと進めさせていただきたいと考えているところでございます。

次のページでございすけれども、来年度に向けての課題や改善点ということで、対話フォーラムにつきましては、コロナ対策もありましたので、なかなか色々な方でお話しいただくというのは難しくて、付箋を使用した対話をさせていただいたのですが、より対話を深めるための取組が必要になってくるのではないかなということと、ご参加くださった方に、SNS 等を通じて情報を拡散していただくような取組も、より広げていったほうがよいのではないかなと考えているところでございます。

それから次世代ツアーにつきましては、ツアーの企画を学生の方に考えていただいたのですが、その学生への呼びかけが、AFP や有識者の方にご紹介いただいた方が中心だったのですが、より大きなメディアの方との連携をやることによって、より大きなメディアにも取り上げていただく可能性が出てくるのではないかなと思っておりますので、このような点も少し検討してまいりたいと考えております。

それからご参加くださった方は、SNS で情報発信等してくださったのですが、この効果をもう少し定量的に、少しでも分析できる仕組みができないのか、なかなか難しいところはありますけれども、このようなことを課題として感じているところでございます。

それから先ほども少しお話しをさせていただきましたけれども、県内外のイベントにつきましては、ブースにご来場くださった方にアンケートを取るのが少し難しいところがあるのですが、少し簡単なものでもいいのでアンケートをして、ご来場くださった方の反応を見てみるということも何かしらできないかなと感じております。また、初めてご覧いただく方には少し難しい内容だった場合もあるかもしれませんので、お子さまですとか、福島にこれまでご関心のなかった方にもお立ち寄りいただいて、少しでもご関心持っていただけるようなコンテンツに改良していかなければならないかなと考えております。また、今年度は福島関連のイベントへの出展が多かったのですが、それ以外にも、福島関連ではなく、不特定多数の方が集まるようなイベントも含めて出展等を少し考えて、より情報を発信する、届ける先を広げていきたいと考えているところでございます。

それから現地見学会につきましては、ご参加くださった方と地元の方々との対話もより組み込めると、地元の方の思いもご参加くださった方にも伝わって、より福島のことについて真剣に考えてくださること、ご理解くださることにつながるのではないかなと思っておりますのでございます。

あと、一番下のメディア広告ということで、今年度は各イベントについての広告がメインだったのですが、イベント広告以外でもマスメディアを活用した広告展開をすると有

効なのではないかという可能性もございますので、可能性を検討してまいりたいと思っています。  
いるところでございます。

それから次、13 ページ目、今年度の全国アンケートの結果です。昨年度と傾向としては一緒で、若年層の方には認知を促進するような、中高年の方には、認知もそうなのですが、理解や参加を促すような取組を引き続き進めていく必要が来年度もあるのではないかと、いうようなことで認識しております。

14 ページ目でございますけれども、全体の総括ということで、繰り返しになりますけれども、各種イベントにつきましては、ご参加くださった方には理解深めていただけたのではないかと、思っておりますけれども、そのイベントを通じてより認知を広げていく、PR をしていくところにより力を入れて取り組んでいく必要があると思っております。

来年度に向けてですけれども、基本的なスキームは変わらずで、右から2番目の参加というところがございますけれども、対話フォーラム、次世代ツアー、県内外のイベント、現地視察会を基本にして、ご参加くださった方には、右側にあるとおり、SNS 等での発信をより強化してやっていくということと、このようなイベントについて、左側がございますとおり、認知・興味を促すということで、PR、WEB での広告、インフルエンサーによる発信、動画企画、デジタル広告などを今年度よりもさらに力を入れて、より多くの方に認知していただくようなきっかけをつくっていく取組をしっかりと継続していくことによって、認知を広げつつ、ご参加くださった方にはご理解を深めていただく取組をうまく並行して進めていきたいと考えているところでございます。

簡単でございましたけれども、以上でございます。資料の数字のミスがございましたところは、後ほど差し替えをさせていただければと思っております。大変失礼いたしました。

(高村座長) ありがとうございます。効果の検証といったところから、次年度以降いかにこの取組を広げていくかということについてのご説明でした。質問のほう、委員の先生方から、何か質問・コメントございますでしょうか。竹田委員、お願いします。

(竹田委員) ご説明ありがとうございます。竹田でございます。2点、確認をさせていただきます。まず1点目が、資料の9ページの辺りに個別アウトカムという言葉があります。これ多分、個別アウトカムっていうイメージとして、個人個人のアウトカムを設定すると読み取ったのですけれども、それでよろしいかっていうのが1点目。2点目が、そうすると、社会に向けたアウトカムというのも存在すると思うのですけれども、その点も配慮されているのでしょうか。それをまずお聞かせください。

(水橋参事官補佐) ありがとうございます。個別アウトカムというのは個人個人に対するアウトカムというわけではなくて、各施策でのアウトカムということを意図してございます。ですので、個人個人というわけではなくて、その施策が全体として見たら、ご参加いただいた方に、個人差はあるのですが、施策全体として見た時に、どれぐらい認知の促進、理解の促進につながったかということが主な検証事項でございます。

(竹田委員) ありがとうございます。そうすると、これアンケートと書いてありますので、

回答するのはあくまでも個人が回答されているわけですね。そうすると、個別というのは、それぞれ施策ごとというのはよく理解できたのですけれども、あくまでも個人の状況を聞いているのだというところが、もう少し社会に発展するような視点も必要なのかなと思いますが、その点いかがでしょうか。

(水橋参事官補佐) ありがとうございます。おっしゃるとおり、アンケートにつきましては個人に対して聞いているものでございますので、あくまでもご参加いただいた個人個人の意識ですとか認識がどう変わったかというところが検証事項になってございまして、この個別の取組がいかにか社会につながっているかということに結びつけて測るのが非常に難しく、この点は非常に悩ましいところでございます。

(竹田委員) ありがとうございます。視点があるということを了解いたしました。

もう1点だけ、すいません。SNSを使った情報発信のところ、特に最後のほうですかね。強化というところを出ているわけですね。例えば15ページ目の辺りの強化というところに、SNSの情報発信というのが出てくるのですけれども、WEBアンケートを拝見させていただきますと、SNSから情報取ったっていう方、結構少ないのですよね、比較的。ただ、増えているよというような解析結果もあったのですけれども、非常に少ない人たちに対してこういう強化をして、どういう効果が生まれるかというのは、このSNSとかに詳しい、この解析の立場から見ると、もうちょっと説明が欲しいのですけれども、いかがでしょうか。

(水橋参事官補佐) WEBアンケートの調査結果ですと、SNSから情報を得たという方が少なかったのは、そもそも私どもがSNSによる発信をそれほど頻繁にできていなかったというところが要因の一つと考えられますので、来年度SNSによる発信も強化してみつつ、皆様がどのような媒体で情報を得たかというのをCTのアンケート調査結果を見るといって、他にも各種イベントをやる際に、「どこでこの情報知りましたか」というアンケートも取らせていただいておりますので、このようなことも含めて、SNSでのPRや発信がどれぐらい有効だったかというのはまた改めて検証させていただきたいと思っております。

若い方々は、新聞やテレビよりもSNSやYouTubeをご覧になれる方が結構多いのではないかとと思っておりますので、SNSでの発信を少し強化してみて、その結果どれぐらいSNSから情報を得たという方が増えているかというところもしっかりと検証してまいりたいと思っております。

(竹田委員) 分かりました。ありがとうございます。

(高村座長) 他、ございますでしょうか。いいでしょうか。保高委員、お願いします。

(保高委員) 保高です。ご説明ありがとうございます。私からは2点ございます。1つ目は、若手の方の認知が低いという状態があったと思いますので、そちらに関しての今後アプローチをしていくというところはあると思うのですが、一方で、若い方というのはいろんな興味があって、若い頃にはこういったことを、社会的な問題に興味持つ方もいらっしゃる、いらっしゃる方もいらっしゃる。そういった中で、一方で社会受容という面から見た時に、こういった問題を受容するか、例えば県外最終処分なり再生利用みたいなことを受容す

るか否かというところは、若い方のほうが受容が高いのではないかというのを、私、学生のワークショップとかして、感じる場所があります。そういった意味で、全国のアンケート調査の中で、若い方に関しては、先ほどの再生利用に関して受け入れてはどうかみたいな話とかあったじゃないですか。そういったところでの受容性の違いみたいなこともしっかり見た上で、こういった層にしっかりアプローチしてくべきなのかということを考えていくべきなのだと。

すいません、要点を申しますと、いろんな SNS を使ってアプローチをしたところで、若い方に興味を持っていただけるかどうかというのは、なかなか難しい問題かなと思うのです。そういった意味では、この問題を認知した時に受容できるか否かみたいなところも含めて総合的な施策を考えたほうがいいのではないかというのが 1 点目でございます。

もう一点が、環境省として他のコンテンツやイベントのコラボレーションという話があったと思うのですが、例えば除去土壌の話だけに興味を持って来られる方が多いというケースの話と、そうではなくて、例えば環境省何か展示会があって、国立公園に行くとか、そういったところで一緒にこういったことを学べる機会があって広げるみたいなことも一つ有効かなと。つまりこういった問題にもともと興味がなかったのだけど、たまたま知ってしまう、そういった状況をつくり出すことを環境省のさまざまな場所でやっていただくというのはいいかなと思いました。2 点目です。

(水橋参事官補佐) 大変貴重なご意見ありがとうございます。1 点目も 2 点目も、おっしゃることは共通する点もあるかと思っております、若い方は、除去土壌の問題自体にそもそもご関心を持ってくださる方があまりいらっしゃらないのではないかとということもあって、私どもで広報の取組を行う際に、対話フォーラムは除去土壌の問題を中心に扱わせていただいているのですが、その他、3 月 11 日のシンポジウムや、その他のイベントでは、除去土壌の問題だけではなくて、福島の魅力的部分も見ていただいたりとか、現地視察会もそうなのですが、福島でこんな新しいことやっているのですよといったところも見ていただくような形で、除去土壌のことだけではなくて、福島のいい面、魅力的な面なども含めて皆様に見ていただいたり伝えさせていただくことによって、福島のいい面も知っていただきつつ、こういう課題もあるのですよといったアプローチもやらせていただいております。

また、おっしゃるとおり、福島の課題だけではなくて、環境省の施策自体にご関心がある方や、環境自体にご関心がある方に、他のことをお伝えするのとあわせて、このことについても知っていただくといったアプローチも非常に重要かと思っておりますので、この除去土壌の問題だけに特化せず、色々な形で少しでも福島に対するご関心を持っていただきつつ、その中で課題を認知していただくといった形で、あまりご関心のない方にもご関心を持っていただきやすいような広報をやっていかなければならないと思っております。ありがとうございます。

(高村座長) ありがとうございます。万福委員から手が挙がっているのですが、ちょっ

と時間が押しておりまして、万福委員、申し訳ない、最後にちょっと総合的な議論の場を設けたいと思いますので、そこでできればお願いしたいと思います。

(万福委員) はい、承知しました。

(高村座長) ありがとうございます。議題の3です。「来年度の理解醸成等の実施計画について」ということで、資料3から、環境省のほうから説明をお願いします。

(西川参事官補佐) 高村座長、ありがとうございます。最後、資料3でございまして、来年度の理解醸成実施計画のご説明をさせていただきます。

まず最初に、前回11月のCTで、来年度も理解醸成ということをやっていく中での視点とか、様々ご意見頂きましたので、どういったご指摘事項があったかということを中心に説明させていただいた上で、来年度の計画をご説明するという流れになっています。

前回のCT、様々ご指摘いただいたものを、ある程度グループ化させていただきました。まずは総論的なところでございますけれども、理解醸成の対象や狙い、効果の明確化ということについてご意見を頂いております。例えば、議題1でもこんな取組やっていますということで様々ご説明させていただきましたけれども、色んな取組ある中で、それが結局誰をターゲット、そして何を目的として、目標にしているのかということを確認すべきというような内容。若者という次世代も大事なターゲットであるけれども、2024年度の戦略目標年度もありますので、そちらに向けては現世代にもアピールをするということが重要であるということ。対話フォーラムについては、比較的年齢層の高い方がいらっしやっていますけれども、色んな世代の方にどういうふうにアプローチをすればいいのか、こちらも検討すべき。先ほど竹田委員から、我々の取組がさらに社会にどのようにアウトカムとして発展しているのか、こちらも今後見ていくべきではないかというご指摘がありました。

また対話フォーラムについても、様々ご意見を頂いております。先ほど議題2でご説明をさせていただきましたとおり、やはり対話フォーラムはなかなか対話の時間が取りづらい部分もあるので、そこをどう工夫するかということ。後ほど小規模の車座という話も出てきますけれども、さらに対話の時間を深める時に、参加者を絞った場合、さらに人数が絞られていく中で、どうやってバランスを取っていくかということ。あと対話ボード、対話フォーラムでも参加者の方とか、たくさんご意見・コメント、今まで7回通じて頂いてきていますけれども、こちらの意見の解析ということは重要ではないかということ。オンライン・現地、両方コメント頂いておりますので、そういった参加者の傾向を押さえるべきではないか。また小規模の対話集会の他に、中間的なサイズの市民参加ワークショップの手法、こういったものもありますということ。やはり今までの対話フォーラムのやり方では、なかなか理解までは行っていただいた上で自分ごとまで行けるかということは難しい部分があるので、工夫が必要ではないかというようなご指摘いただきました。

さらに自治体への取組についてということで、自治体の方も県外最終処分という課題については非常に重要な主体であるということも踏まえて、自治体の方々がどう自分ごととして捉えるのかということ、重要なポイントになってくるということ。自治体の方に伝え

ていく中で、いきなり「これはこうしてください」と言って持っていくと、なかなか最初受け止めにくい部分もあると思いますので、まずは取組を紹介する中で、さらに課題であるというような、少しずつソフトランディングするような説明の仕方があるのではないかと、うようなご指摘があります。

さらに現地見学会についてもご指摘いただいております、やはり現地に来ていただくポジティブに意見が変わってくるということは、毎年度こちら確認されていますので、ぜひ続けるべきではないかというようなこと。また、現地見学会には足を運んでいただく必要がある、対話フォーラムなども通じてご意見、対話をできるような機会は継続すべきではないかということ。

また学生向けの取組ということで、先ほど資料1でもご説明しましたが、学生向けの講義、ワークショップ、これは教育としての意義があるので、継続的に実施ということも非常に重要ということです。

最後に、地域の歴史・文化、思い・記憶の継承ということで、中間貯蔵施設であったりとか、長泥の現地見学会をやってございますけども、こういった事業やっていますということの技術的な面に加えまして、その土地の歴史であったり、人々の気持ち・記憶、また未来を考えていく時というようなことも含めてご説明とか対話を深めていくべきではないかということ。

あと対話フォーラムでも、地元の町長の皆さまのビデオメッセージも頂いていたり、住民の方の動画も流させていただいております。やはり地元の方の思いというものを伝えていくのが非常に重要じゃないかということなので、事前学習として紹介とか、何かそういったものもぜひ活用していくべきではないか。

あとは我々として、『福島環境再生 100 人の記憶』という冊子を作らせていただいております、さまざまな方の思いというものを本でまとめておりますけども、そういったものを用いたりとか、中間貯蔵施設の工事情報センターのデータ活用、こういったものを踏まえまして、単に事業の説明をするのではなくて、地域の方の思い、こういったものをしっかり発信していくべきではないか。その他こういったご指摘をいただいたところでございます。

今のご指摘とか、また今年度 WEB アンケートの結果、さらには、資料2で理解醸成の取組に関する効果検証の結果をご紹介させていただきました。来年度は令和6年度が戦略目標年度ということで、取りまとめの時期が来るということでございますので、やはり再生利用・県外最終処分について全国的な理解醸成を引き続き進めると、各世代の認知・理解、これをさらに進めていく必要があるというふうに考えてございます。

来年度の計画、取組を検討するに当たっての留意点、4つほど挙げさせていただきました。

まず世代別の取組におけるアプローチの考え方ということで、こちらの資料2でもご説明をさせていただきましたけども、やはり若年層の認知の部分、まだなかなか十分ではないという部分もあるので、若年層は引き続き認知施策も留意しつつ、中高年層は理解施策の重点を置くと、そういうようなことがあり得るのではないかと。

あとは対象の拡大ということで、自治体とか、他の主体も含めて理解醸成の対象として取組を推進すべきではないかということ。

また共有・拡散の取組の強化ということで、こちらは資料2でもご説明させていただきましたけども、やはり単発のイベントだけではなくて、その参加者とか、そういった方々も含めて情報の共有・拡散というのが重要ではないかということとか。WEB アンケートでも、認知に当たってどういった情報媒体があったかということも我々取っておりますので、今年度も効果があったと思われるメディアとの連携であったりとか、SNS の活用は、次世代による SNS 等の活用によって共有するアウトプットを推進していきたいと思います。

最後に取組の改善・深化ということで、この対話集会の方式であったり進め方、先ほど対話を含め時間がなかなか取れてないのではないかとということもあったと思いますけども、そういった点も含めてどういったことを改善できるかであったり、現地見学会等において、地元の思い、文化・歴史などの伝承も検討していきたいと思います。

最後になりますけども、こういった今までの議論を踏まえまして何をやっていくかということで、こちら簡単に表でまとめてございます。対象・狙いということで、世代別であったりとか、対象、自治体・メディア・海外ということで、そういったことでまずは整理をした上で、それぞれの取組や効果、認知・理解のためなのか、少なくとも参加をしてもらって自分ごととして捉えてもらうものなのか、そういった効果もさまざまあると思いますので、そちらで整理させていただきました。

まず全世代向けということで、対話集会の実施を挙げさせていただいています。今年度、今まで7回、予定も含めれば8回ということで対話フォーラムを実施してまいりましたが、やはり前回も CT でご紹介させていただきましたが、こういう対話を深める小規模な車座対話も、例えばでございますけども、試行的に実施するということをぜひ考えていきたいと思います。そういった中で、どういった規模で、どういった対話の方法でということは、またしっかりデザインしていかなければいけないと思いますので、こちらでも検討を進めていきたいと思います。

鉢植えの設置拡大ということで、こちらも引き続き進めまして、認知・理解というところについては、こういった取組を進めたいと思います。

さらに参加というところでございますけども、引き続き中間貯蔵施設とか長泥地区環境再生事業の現地見学会、こちらを実施していきたいと思います。実施の中で、先ほどもお話しさせていただきましたけども、やはり地元の思い、歴史・文化を伝えるということについて、例えば地元の方から直接現地見学会の参加者にそういった思いとか、文化・歴史を伝えていただくような企画もあり得るかなと思いますので、そういったものを含めて改善を発展していきたいと思っております。

またホープツーリズムの連携、最初にお伝えしましたが、こういったことも検討してまいりたいと思います。

次世代でございますけども、先ほど資料1でもお話しさせていただきましたが、やはり引

き続き大学・高校への講義、現地ワークショップ、あと次世代ツアー、こちらもやはり継続的に実施していきたいと思います。そうした中で、先ほどお話ししたような SNS の活用した効果の実施であったりとか、先ほども全世代でも書かせていただいていますけども、イベントであったり、講義、現地見学会、このいろいろ参加していただいた方からの情報発信、これも後押ししてくような取組を考えていきたいと思います。

さらにということで、次世代に加えて現役世代ということも重要だと思ってございまして、例えばでございますけども、企業向けのセミナーであったり、現地見学会の実施、また関係する学会との連携であったりとか、そういったものを進めたいと思います。

さらに自治体の重要性ということで、先ほども説明させていただきましたけども、例えば自治体の方も出席する会議で引き続き我々の取組っていうのをしっかり説明していったりとか、自治体の方に現地を見ていただくというような現地見学会、これも検討していきたいと思います。

またメディア向けの情報発信、これ非常に重要でございますので、メディアの方へ我々の取組であったりとか現地のことをぜひ発信していただくような取組として、国内外のプレス向けのツアー、これも引き続き継続していきたいと思います。

最後になりますけども、海外の方向けの情報発信ということで、先ほどご説明したような、COP であったり G7 とか、そういった場での情報発信であったりとか、IAEA との専門家会合、これも実施予定でございますので、こういった場も通じて情報発信しっかり取り組んでまいりたいと思います。

資料3については以上になります。

(高村座長) ありがとうございます。これまでにされた分析等も含めた、踏まえた上で、来年度の理解醸成活動をどのようにしていくかということについて説明がございましたけども、委員の先生方から質問・コメント等ございますでしょうか。大沼委員、どうぞ。

(大沼委員) ご説明ありがとうございます。個別にやることについては全く異存なくて、先ほどもご説明いただいたとおり、個別のことについては個別の効果をきちんとあるということの裏付けは十分取れていると思うので、あとはその全体をどう理解、押さえるかということだ思うのですけども。多分これコミュニケーションの話から言うと、一方向か双方向かかっていうところの軸があって、一方向的であるほど大勢に拡散できるけれども効果は浅い。逆に双方向であるほど理解とか共有のところまで深まる。さらにその双方向的なものより深いものとして、参加型があるというふうに捉えたほうがいいと思うのです。やっぱり現地に足を運んで参加いただいた方には、より共有していただける、共感していただけるという空気があったと思うので、だからそういうふうに全体を整理し直したほうがいいかなと、ちょっと聞いていて思いました。

先ほど保高委員がご指摘したとおり、このいろんなことをやる究極のゴールは、社会的受容、受容性です。社会に受け入れていただくと、ここが究極の目的なはずなので、そういうふうに整理し直すといいかなと思います。その意味で、ちょっと今見えているスライドです

と、効果という列に参加というのがあると思うのですが、参加はあくまでもツールであって、先ほどの、すいません、資料3に戻って恐縮なのですが、資料2にも、スライド15とか出ますかね。認知、興味、理解、参加、共有・拡散とあるけども、ここに参加というのがあるのがちょっと奇妙で、参加することによって興味や理解が深まるし、さらに共有しようというモチベーションも深まるし。矢印の究極のゴールは受容なのです。

実際参加型のイベントをやっていると、今回の結果にあまり出てなかったけれども、再生利用を自分の住んでいる地域でやってもいいよって割合が増えるじゃないですか、ほぼ確実に。そこまでやっぱり増える効果が十分あるわけですよ、参加型のイベントって、特に現地に足を運ぶイベントというのは。そこまできちんとできているのだから、そこが究極の目標なので、そこに向けてこういうことやっているのだというふうに全体を捉え直すといいのかなというふうに思いました。以上です。

(高村座長) ありがとうございます。環境省のほうから、コメント等ございますでしょうか。

(西川参事官補佐) 大沼委員、ありがとうございます。すいません、先ほどの資料3、まずは対象と効果と取組ということで整理を試みたところではございますけども、おっしゃるとおり、個別の取組は個別の取組として、全体としてどこに向かって、何をやってくのかと、それが一方向なのか双方向なのか、さらに双方向の先に参加型、共感というフェーズがあると思いますので、この6ページ目、このような整理はしてみましたけども、ご指摘も踏まえまして、先ほどの資料2の15ページにあるような、それぞれについて最終的にどこを目指して、何をしてくのかということ、より全体的に体系的に整理できるよう、そこは引き続き検討していきたいと思います。

最終的なゴールということで最後いただきましたけども、社会的受容性、再生利用であったり県外最終処分を自分の家の近くでも、例えば来てもしようがないと思うとか、そこも含めて、より受容性をいつまでにどれくらい進めていくかということ、WEBアンケートもうまく活用しながら、しっかりどのような意向が各年度進んでいるのかということもしっかり把握しながら、しっかり整理をしていきたいと思います。資料2、10ページについてもご指摘ありがとうございます。引き続きご指導よろしく申し上げます。

(高村座長) ありがとうございます。今の大沼委員のご指摘、非常に重要で、この最終的なゴールとしての受容というところ、これに向かってどういうふうにロードマップを持っていくかと、その受容ということで、どういうふうな指標を練り、そういったものを対比できるような指標とかを考えいくのは非常に重要なところだと思います。

他にご意見等・コメント等ございますでしょうか。じゃあ私のほうから、ちょっとコメントというか、今ちょうど出ているところなのですが、理解醸成について、対象と効果、取組というのがありました。自治体というのは非常に重要なターゲットになるのではないかなと思っています。自治体がちゃんとこういった意識を持つことで、それを広く住民の方に広げていくきっかけになるわけですから、非常に重要だと思うのですが、私、その自

自治体出席の会議における取組説明というものの具体的にどういった場を活用して自治体の皆さま方に取組を説明されるのかということ、ちょっと具体的に聞かせていただきたいのですが、いかがでしょうか。

(西川参事官補佐) 高村座長、ありがとうございます。今ご指摘の自治体の取組についてのご質問でございますけれども、現状考えておりますのは、今年度も実施はしてきたところではございますけれども、例えば環境省では、廃棄物の行政分野で自治体の方との定期的な会議の場を我々として設定しているところですので、そういった場を活用しながら、その会議自体は廃棄物行政の現状であったりとかを議論する場ではあるのですが、その中で環境再生であったり県外最終処分、こういった課題っていうものもありますと言って、それに向けて環境省でこういった取組をしていって、今後こういった課題がありますというようなことを含めて、まずは取組を説明していきたいというのがございます。まとめますと、現状環境省として会議を設定している中をより活用できないかというのがまず一つの案としてございます。

さらに他の会議の可能性はあるかどうかというのも含めて、そこは我々としても検討していきたいと思っております。ご指摘のとおり、自治体は主体として非常に重要ですので、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

(高村座長) ありがとうございます。万福委員、お願いします。

(万福委員) ご説明もありがとうございました。全国民への理解、向上させていくということで、大沼委員からもご指摘であったように、これが横ばいだっていうのは非常に評価できるという言葉も頂いた中だとは思っておりますけれども、メディアの部分で、以前ちょっと保高委員からもご説明があったかと思いますが、例えば電車の中張り広告とか、自動ドアの上の所に映像があるのですが、ああいったところで少し今進んでいることを周知していく。再生利用を促すっていうわけではなくて、今こういう課題と向き合っていますというところを工夫されるのも一つなのかなと思っております。

それと、実証事業等で実施されている内容については、例えば理解醸成とはちょっと異なっており、化学的な根拠の部分になりますので、やはりアプローチについては工夫をされていくというのがよろしいのではないのかなと思っております。先ほど前の質問で、意見出そうと思ったのは今の点ですので、広くご検討いただければと思います。以上です。

(高村座長) ありがとうございます。環境省のほうから、いかがでしょうか。

(水橋参事官補佐) 電車の広告につきましては、今、万福委員からもお話をいただきましたし、あと以前別の場所でも保高委員からも少しお話しいただいております。電車の広告、今年度も中張り広告は少しやらせていただいております。この中張り広告につきましては、読んでいただくものになりますので、除去土壌の話ではなく、「FUKUSHIMA NEXT」という、福島で未来志向の取組をやってくださっている方を紹介するような広告をさせていただいて、「福島で何かすごく明るいことやっているな」というのを皆様に見ていただく取組を、今この時期にやっております。路線は限られておりますけれども、委員の皆様

も、機会があれば、ぜひご覧いただければと思っております。

それとは別に、最近の電車では、テレビなども付いていますので、除去土壌の話とかを映像で流したりといった取組も来年度少し検討してまいりたいと思っておりますので、ご助言ありがとうございます。

(万福委員) ありがとうございます。

(高村座長) ありがとうございます。今言われたような取組、非常にやはり目に触れる機会も増えるわけですから、非常に重要だと思っておりますので、ぜひ前向きに検討いただければと思います。他の委員の方から、質問・コメント等ございますでしょうか。いいでしょうか。竹田委員、お願いします。

(竹田委員) すいません、短めに。少人数の小規模な車座対話っていうの、もう既にコメントとして出ておまして、非常にいい取組だと思います。この参加した方が、SNS なんかで発信する方って結構いらっしゃるのですね。なので、全般を通じてそういうものとの連携っていうことを考えられてもいいかなと思いました。一部分で SNS を使うのではなくて、全般を通じてそういう発想っていうのを考えられたほうが、結構書き込む方いらっしゃいますので、効果があるのかなと思いました。以上、補足です。ありがとうございます。

(高村座長) ありがとうございます。何か環境省のほうから、コメントありますか。

(西川参事官補佐) 竹田委員、どうもありがとうございます。小規模の車座で SNS で発信する方が多いというのは、非常に重要な情報を誠にありがとうございます。ご指摘のとおり、イベントであったりとか対話集会であったりとか、さまざま取組をする中で、単にそれで終わるのではなくて、そちらとの連携でもないのですけれども、SNS での発信をその参加者を通じてであったりとか、そういった取組も連携させながら情報発信を進めていくとか、単に単発で終わらずにその各取組間の連携も含めて、しっかりそこは体系的に整理をして進めていきたいと思っております。

(高村座長) ありがとうございます。他にコメント等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に進めたいと思っておりますけれども、ここからは委員の皆さま方から全体を通してご意見・ご質問等あれば受け付けたいと思っておりますけれども、お願いできますでしょうか。じゃあ、考えていただく間に私から 1 つ。

ちょうど今出している、先ほど自治体の話があったと思うのですが、例えば可能性としてあるのが、何らかの学会と連携して、シンポジウムとしてこの除去土壌の問題というのを取り上げていただく、それも、例えば私が関連する学会で言うと、公衆衛生学会とかでいくと、大学の人間プラス自治体の方が多く参加されていますので、そういった構成要素を考えて、ここのあるような対象者の中が含まれるような学会とかでシンポジウムをするとか、そういったことをされて、そこから波及効果を持っていくっていうのも一つじゃないのかなと思いました。これは単なるコメントでございます。

他、委員の先生方から何かございますでしょうか。海外の発信という意味でも、国際学会の場でこういったセッション、積極的に情報発信していくとか、ブースを設けるとか、そう

いうことも非常に重要だと思しますので、これ、将来的な課題としてぜひ検討していただければと思います。そういった意味で、IAEA との専門家会合の実施というのは、非常にこれ重要だと思ひまして、もっと言えば、それをいかに例えばメディアに取り上げてもらうかということもにらみながら進めていただければ非常に効果的になるのではないかと思います。

他の委員の方から何か質問・コメントございますか、保高委員、お願いします。

(保高委員) ありがとうございます。2つございまして、1つは、僕は広告に関して、もしくはこういうメディアに関してあまり費用のことはよく分かっていないのですが、よくこれはリスク評価とかで費用対効果という話を常に考えることになります。そういった意味では、こういった広報っていうのは無限にスキームが上がるのではなく、限られたスキームの中でやっておられると思いますので、そういった中で、こういったところが効果的なのかっていうことに関してのコメントみたいなもの、もしくは整理した結果みたいなものを来年度また整理してご提示いただくといいのかなというのが1点でございます。

もう一つが、この中間貯蔵等のこの戦略検討会、上の委員会になると思いますけど、そういったところで戦略目標というのが多分あって、それで何か2024年までに戦略目標をある程度立てましょうという話があったと思うのですよね。そういった意味では、このコミュニケーション推進チームであったり、広報、理解醸成活動に関して、その戦略目標のゴールに対して今どの程度まで来ているのか、またその以降に関して、戦略目標どのように立てていくのかっていうことの議論に関しても、来年度しっかり突き進めていくといいのかなと思いました。以上2点でございます。

(高村座長) ありがとうございます。環境省のほうから何かコメント等ございますでしょうか、この点について。

(西川参事官補佐) ありがとうございます。少し戻らせていただいて、高村委員と大沼委員から頂いた、学会の連携の中での自治体であったり海外への情報発信も含めてというところは、非常に重要なご指摘いただいたと思います。またこちらの学会との連携の方法、在り方については、CTの委員の皆さま方のご指導、ご相談をさせていただきながら、こちらはぜひ進めさせていただきたいと思います。

また、保高委員からご指摘いただきました2点でございます。費用対効果というところでございます、この点非常に行政として進める上でも重要だという点でございますので、来年度こういったことが提示できるかということをしっかり整理しながら検討したいと思ひます。

さらに2点目は親検討会というところで、おっしゃるとおり24年度にまず戦略目標の年度が来ます。そこまで我々として目標立てていった中で、どこまで進捗して、また25年度、具体的にこういったものを進めていくのかということ、これは中長期的な点も含めて、ぜひ来年度CTでまた議論させていただきたいと思ひますので、こちら準備も進めたいと思ひます。

(高村座長) ありがとうございます。他に委員の先生方から何か感想ございますでしょうか

か。よろしいでしょうか。それでは、本日予定した議題は以上となります。委員の先生方、活発なご議論・ご意見賜りまして、ありがとうございます。その他として、事務局から何かございますでしょうか。

(西川参事官補佐) ありがとうございます。事務局からは特段ございません。

(高村座長) 分かりました。本日は委員の皆さま方におかれましては、長時間にわたりまして、なおかつ非常に活発なご意見、また貴重なご意見を頂きました。これで議事は終了ということで、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

(西川参事官補佐) 高村座長、ありがとうございます。また委員の皆さまにおかれましては、本日大変貴重なご意見を頂き、誠にありがとうございます。今回頂いた貴重なご意見を踏まえまして、ぜひ来年度もしっかり理解醸成の取組を進めてまいりたいと思います。

冒頭申し上げましたとおり、本日の議事録につきましては、各委員の皆さま方にご確認をいただいた後、ホームページ上に掲載いたしますので、こちらも大変恐縮ですが、ご協力よろしくお願いします。

それでは閉会に当たりまして、環境省の馬場参事官よりごあいさつさせていただきます。よろしくお願いします。

(馬場参事官) 本日は活発な議論、ありがとうございます。今日資料の1で、どういうツールで情報を得ましたかというものが、全世代の平均のデータはお示しできているわけですが、これを年代別に分けてみるとどうなるかとか、そういうところも分析してみないといけないなと思いました。

また資料2の16ページ、17ページに、あらゆる広報施策を網羅的に整理して、今やっている施策をピンク色にしているのですが、ここに保高委員がおっしゃったコストの観点も抜けていましたので、そこもきちんと入れていかなければいけないなと思いました。いずれにせよ、これまでの統計調査をさらにちゃんと分析しながら、こういう広報施策の全体像を見て、これまでの効果をきちんと検証して、2024年の戦略目標に向けてまとめていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。

(西川参事官補佐) ありがとうございます。それでは、本日の中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会コミュニケーション推進チーム第6回を閉会いたします。本日はご多忙の中、長時間にわたり議論いただきまして、誠にありがとうございました。

以上